

<p>【技術の名称】 仮設床開口補強筋セルボン工法 —仮設床開口部周囲に配置する先組み補強筋を用いる工法— (改定)</p>	<p>性能証明番号：GBRC 性能証明 第04-11号 改 性能証明発効日：2014年3月24日</p> <p>【取得者】 株式会社アクス</p>
---	--

【技術の概要】

本技術は、建築物の施工時に上下階への資材運搬用に鉄筋コンクリート造床スラブに設ける工事用の仮設開口部において、その周囲に配置する工場で先組みした床開口部補強筋（セルボン筋、セルボン主筋およびスライド筋で構成される）を用いる工法である。セルボン筋は、呼び名がD6の異形鉄筋を積み重ね、その前面に型枠メッシュを配置することで型枠として用いられ、かつ、仮設開口部周囲コンクリートのひび割れ抑制と開口で分断されるスラブ筋の補強を兼ねた鉄筋である。セルボン主筋は、仮設開口部で分断されるスラブ筋を補うために配置される補強筋であり、スライド筋は、仮設開口部跡に作用する鉛直荷重時の曲げモーメントに抵抗させるための補強筋であり、仮設開口部では露出している。仮設開口部は、スライド筋を均等に配置した後、後打ちコンクリートによって閉塞される。

【改定の内容】

新規：GBRC 性能証明 第04-11号（2004年11月2日）

改定：GBRC 性能証明 第04-11号 改（今回）

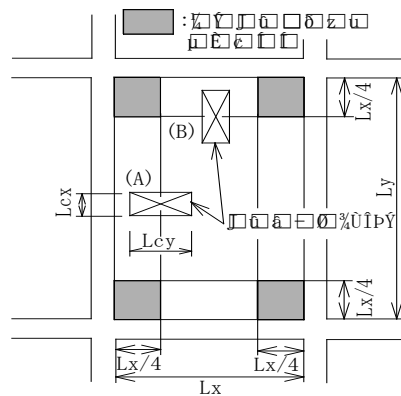
- ・先打ちコンクリート型枠および後打ちコンクリート型枠存置期間の明示
- ・標準品(6060型)の寸法変更
- ・設計施工要綱の表現修正

【技術開発の趣旨】

従来、鉄筋コンクリート床スラブの仮設開口部周囲に配置する開口部補強筋は、日本建築学会「鉄筋コンクリート造配筋指針・同解説」等においても取り扱われていないので、無開口スラブの場合と同等の構造性能を確保することを原則として様々な配筋詳細によって施工されている。しかし、そのような配筋詳細の妥当性は、いずれも実験で確認されていない。これに対して、仮設床開口部補強筋セルボンを用いる工法は、施工性を高め、かつ、仮設開口を設けないスラブと同等の長期荷重下での構造性能を確保することを意図して開発したものである。

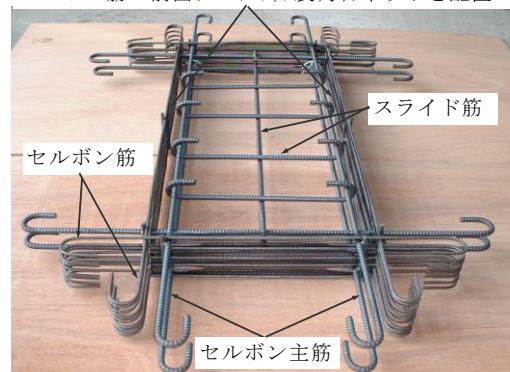
【性能証明の内容】

本技術についての性能証明の内容は、以下の通りである。
 申込者提案の「仮設床開口補強筋セルボン工法 設計施工要綱」および「同工法 セルボン製造要領」に従って設計・製造・施工された仮設床開口部補強筋セルボンは、仮設開口部周囲コンクリートのひび割れ抑制効果を有し、本工法を用いて後打ちコンクリートによって閉塞された工事完了後の鉄筋コンクリート床スラブは、一体打ちされた無開口の鉄筋コンクリート床スラブと同等の長期許容耐力を有するとともに、無開口の鉄筋コンクリート床スラブと同等の終局耐力を有する。



【仮設床開口補強筋セルボンの配置】

セルボン筋の前面にプラスチック製角目ネットを配置



【仮設床開口補強筋セルボンの配置】

【本技術の問合せ先】

株式会社アクス 担当者：大野 拓司
 〒210-0847 神奈川県川崎市川崎区浅田 4-6-7

E-mail：takuz-ox@arion.ocn.ne.jp
 TEL：044-366-6242 FAX：044-366-6246